

## 三宅村の子ども（0才から就学前まで）と家族の実態調査

### ご協力をお願い

三宅島噴火災害に伴う島外避難生活が続く、ご苦勞が続く毎日と推察いたします。

避難生活の状況に対して、これまでに高齢者の方々、あるいは世帯単位の調査を行い、生活の状況を把握することに努めてまいりました。また、小中学生など児童・生徒に対しては学校などを通して状況を把握し、支援を計画することができます。

しかし、乳幼児を対象にした支援は保育園の先生方を中心に巡回などを行っていますが、より充実した支援策が必要であると考えます。そこで、乳幼児(0才から就学前)を抱えるご家族に対して今後どのような支援が必要であるかを考えるために、現在皆様が感じておられる問題や困難をお聞きし、状況を把握する調査を企画いたしました。

つきましては、皆様の支援策を考えるうえで貴重な資料となりますので、ご協力いただきたく、お願い申し上げます。

なお、調査は三宅島にて母子保健事業に関わっていた東海大の式守他も参加し、共同で調査をすすめます。回答はすべて統計的に処理し、個人名やその他のプライバシーが公表されることはありません。どうぞ率直なご意見をお寄せください。

どうぞよろしく願いいたします。

この調査について質問あるいはお問い合わせは

三宅村新宿総合事務所保健福祉課 保健係長 松村 電話 03-5320-7827

もしくは

東海大学健康科学部看護学科 式守晴子 電話・ファックス 0463-90-2063

(研究協力者 千葉大学看護学部 石垣和子、埼玉県立大学保健医療福祉学部 濱本洋子)

\* ご家族について一部、また、0才から就学前のお子さんお一人につき、それぞれ一部づつアンケートにご記入くださいますようお願いいたします

\* ブルーの用紙のアンケートはブルーの封筒に入れて2月中旬(2月16日ごろ)までにご返送ください。

参考資料

子どもの発達のだいたいのめやす

年齢	体のうごき	ことば	あそび	生活習慣
1才	つたいあるき	大人の簡単な言葉が (おいでなど)わかる	音楽に体を合わせる	
1才6ヶ月	一人で歩く	ママ、ワンワンなどの 単語がいう	ドアや引出しの開閉 を繰り返したり、人形 や自動車で遊ぶ	コップの水がのめる
2才	走る	ママ来たなど2語文 がはなす	子供どうして追いか けっこをするが、おも ちゃの取り合いにな	スプーンなどを使い 一人で食べる
3才	階段をのぼる	これなに、どうしてな どさかんに聞く	円がかける	大きなボタンをはめ る
4才	2～3段の階段から とびおりたり、片足で けんけんをする	自分のしたことをお かあさんにはなす	ままごとなどごっこ遊 びをする	手洗い、くちすすぎが できる
5才	でんぐり返しができる	色がわかる	保育園や幼稚園など 集団の中で遊ぶ	大便が一人でできる
6才	片足で5～10秒たっ ている	前後左右がわかる	ルールを守って遊ぶ (トランプ、かくれん ぼ)	洋服を一人で着たり 脱いだりする

(母子手帳や母子保健マニュアルを参考にしました。)

## 「避難生活が乳幼児と家族に与える影響とその支援についての調査」

### (訪問もしくはグループ調査) へのご協力をお願い

島外避難生活が続き、毎日の生活のご苦勞はたいへんなものと推察いたします。

これまでの地震などの自然災害後の調査では、災害によってお子さんやご家族の健康に多大な影響を与えることが示されてきました。そこで、避難による生活環境の変化や今後の生活への不安によってご家族の方々はどのようなストレスを抱えているのか、またそれがお子さんの成長にどのように影響するのかについて実態を明らかにし、今後の支援の方向を見出したいと考え、より詳しい調査を計画しております。

新たな調査は、同封した三宅村と共同で行う調査とは別に、看護系大学に勤める研究者と協力して行います。

調査は次のものを計画しております。

#### 方法

1. 個別訪問 (3月以降に予定)
2. 数人の方が集まりお話をうかがうグループによる聞き取り調査 (4月以降に予定)  
(ご協力いただける方の地域に合わせて計画し、お子さんたちと一緒に集まりいただく予定です)

#### 調査内容・分析方法

お子さんとご家族の生活の変化とストレスについてより詳しいお話を伺います。

お聞きした内容を分類し、抽象的にしたカテゴリーに分け、分析します。

個人名が特定されることはありません。

調査結果はご協力いただいた方にお知らせします。

上記の調査の趣旨をご理解いただき、調査にご協力いただきたく、お願い申し上げます。

ご協力いただける場合は、別紙のピンクの用紙にご記入の上ピンクの封筒に入れて、ご返送ください。

どうぞよろしくお願いいたします。

2002年1月末日

代表 式守晴子 (東海大学 健康科学部)

石垣和子 (千葉大学 看護学部)

濱本洋子 (埼玉県立大学 保健医療福祉学部)

この調査に関する問い合わせ先: 式守晴子

電話/ファックス (直通) 0463-90-2063

〒259-1193 神奈川県伊勢原市望星台 東海大学 健康科学部

「避難生活が乳幼児と家族に与える影響とその支援についての調査」について  
次の調査に協力いたします。(ご希望に○をつけてください)

1. 訪問による聞き取り調査

2. グループによる聞き取り調査

・訪問・グループによる調査日程についての連絡方法のご希望をお書きください。

①郵便

②電話かファックス

③その他

(ご記入日                      年                      月                      日)

ご住所

お名前

電話番号/ Fax/ e-mail